

## 「核のごみ処分場議論起こしたい」、文献調査受け入れ目指す片岡春雄寿都町長

高レベル放射性廃棄物（核のごみ）最終処分場の選定に向けた「文献調査」の受け入れを目指す片岡春雄北海道寿都町長が2日、日本記者クラブ主催の記者会見で、「だれかが手を挙げないと議論が進まない」など現在の心境を語った。



片岡春雄北海道寿都町長（日本記者クラブ「YouTube 会見動画」から）

原子力発電所の使用済み燃料は再処理して、ウランとプルトニウムを取り出し、原発燃料として再利用するというのが日本の原子力政策の柱となっている。再処理後に残る放射能が高い廃液は、ガラスで固めた後、高レベル放射性廃棄物として300メートル以上深い地層に埋設処分する方針が決まっている。ただし、再処理事業自体も、青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場の完成が遅れ、予断を許さない状況。高レベル放射性廃棄物最終処分の方はより深刻で、場所をどこにするかの調査にも手がついていないのが現実だ。

片岡町長は、8月13日に「文献調査」に応募を検討する考えを明らかにした。すでに住民や産業団体などに説明会を実施している。「文献調査」というのは、ボーリング調査などに移る前に活断層の有無などを資料で調べる最初の調査となる。調査は2年かかり、受け入れた自治体には20億円の交付金が支給される。これまで2007年に高知県の東洋町が手を上げかけたが、住民の反対が強く応募に至らなかった。以後、調査受け入れを表明する自治体は皆無という状況が続いている。片岡町長の動きに対し、鈴木直道北海道知事がすぐさま反対の意向を表明し、寿都町内でも住民たちから反対の動きが出ている。

テレビ会議システムを利用した記者会見で片岡町長は、現在、約 2,900 人の町人口が今後も減っていく可能性があることに危機感を示し、「どういう町をつくるのか、いろいろな挑戦を町としてしなければならない」と「文献調査」の受け入れを目指す背景を語った。核のごみ最終処分場について「誰かが手を挙げないと話は進まない。安全かどうかは調べてみないと分からないのだから、数十の自治体が手を挙げてほしい」という思いも明かした。

寿都町は、北海道電力の泊原子力発電所がある泊村の数十キロ南に位置する。泊村の北側に隣接する神恵内村の高橋昌幸村長も「文献調査」受け入れを目指している。2 日には村議会の総務経済委員会が、文献調査に応募を検討すべきだという地元商工会の請願を賛成多数で採択した。神恵内村のこうした動きに対して片岡町長は「とてもうれしい。仲間ができてよかった」と語った。寿都町、泊村、神恵内村とも北海道後志総合振興局所管の日本海に面した北海道西部に位置する。

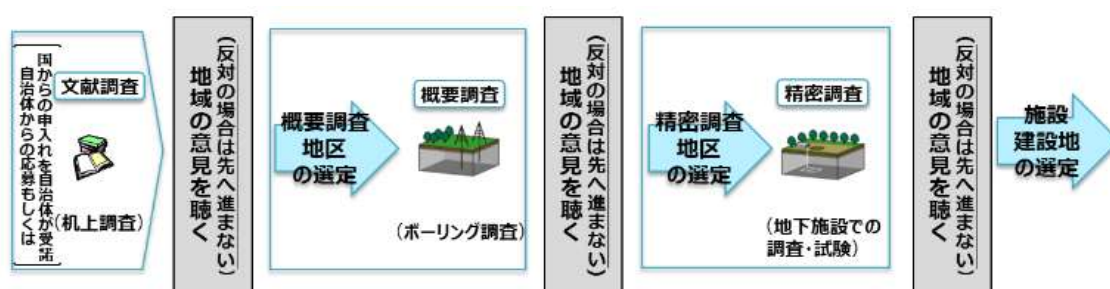
#### 北海道後志総合振興局所管 1 市 13 町 6 村（北海道ホームページから）



核のごみ最終処分場の事業機関としては、2000 年 6 月につくられた「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」に基づき、同年 10 月、「特別の法律により設立される法人」として「原子力発電環境整備機構」が設立されている。同機構によると、まず調査を受け入

れた自治体に対し「文献調査」を実施する。調査後に地元の同意が得られれば次の「概要調査」に移る。これは調査地区を選定した後、ボーリング調査などを行う。さらに地元の同意が得られたら地下施設での調査・試験という「精密調査」に移行する。これら三段階の調査に要する期間は約 20 年。その後、施設建設地の選定が行われ、国の安全審査を経て地層処分施設の建設・操業・閉鎖となり、地層処分事業全体では約 100 年を要する、としている。

### 調査手順



(原子力発電環境整備機構「イチから知りたい核のゴミと文献調査」から)

片岡町長は「精密調査が終わるまで 20 年かかる。その後、すぐに核のごみ処分場の建設が始まるわけではない。調査の過程で学者の意見などもしっかり聞き、時間をかけて判断するのが妥当と考える」と、調査を受け入れと最終処分場の受け入れは別であることを強調した。

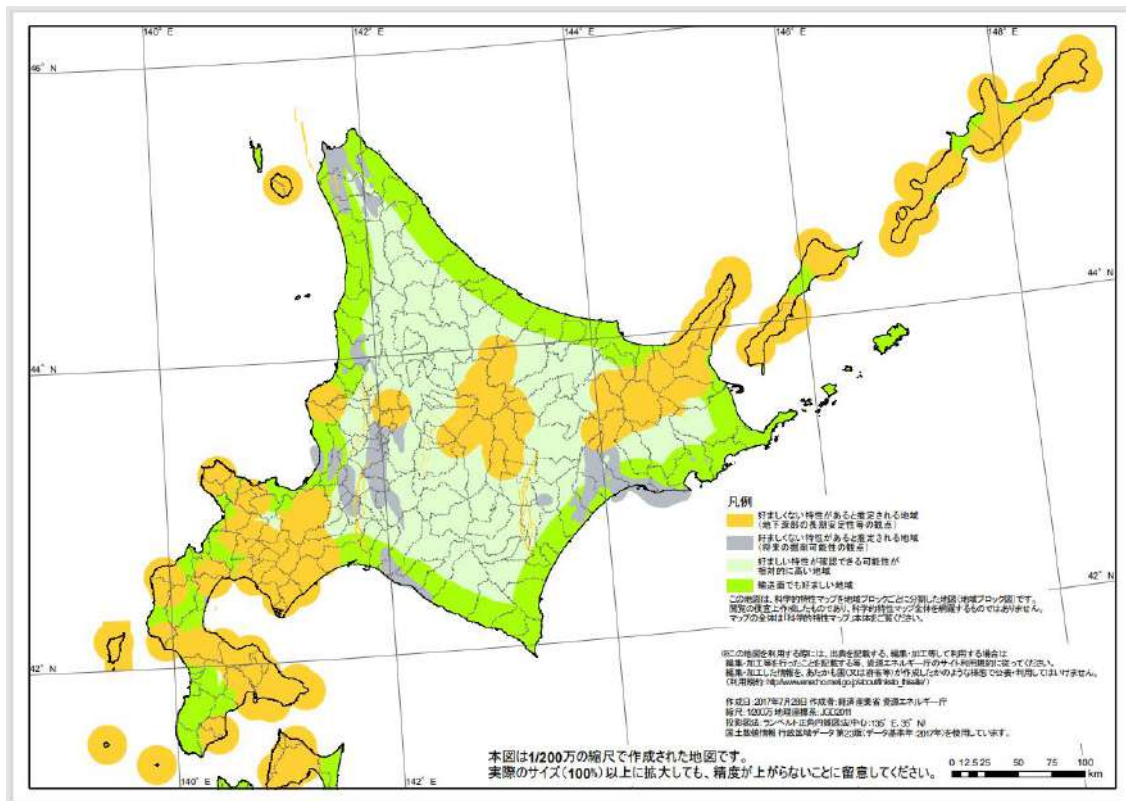
「文献調査」を受け入れることで国から支給される 20 億円の交付金をどのように使うのか、と記者会見で問われた片岡町長は「自分の頭の中にはあるが、町議会の皆さんにも話していないので答えは控えさせてもらいたい」と答えた。

日本政府は、2015 年 5 月、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する新たな基本方針を決定している。地層処分を前提に国民や地域の理解と協力を得る目的から 2017 年 7 月に「科学的特性マップ」が公表された。地層処分を行う場所を選ぶ際にどのような科学的特性を考慮する必要があるのか、それらは日本全国にどのように分布しているかを示した地図とされている。好ましくない特性がある地域や、好ましい特性が確認される可能性が相対的に高い地域など四つの色で分けられている。寿都町は「輸送面でも好ましい地域」とされる緑色で表示されており、神恵内村は、「好ましくない特性があると推定される地域 (将来の掘削可能性の観点)」とされる灰色で表示されている。

2018 年 7 月閣議決定された第 5 次エネルギー基本計画は、「科学的特性マップ」公表を契機に、国民との多様な対話活動の推進などの取り組みを一層強化し、複数の地域による処

分地選定調査の受け入れを目指す、と明記している。

### 「科学的特性マップ」北海道ブロック



資源エネルギー庁「科学的特性マップ公表サイト」から。「好ましくない特性があると推定される地域（地下深部の長期安定性等の観点）」(だいたい色)、「好ましくない特性があると推定される地域（将来の掘削可能性の観点）」(灰色)、「好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い地域」(薄い緑色)、「輸送面でも好ましい地域」(濃い緑色)に色分けされている

日文 小岩井忠道 (JST 客観日本編集部)

#### 【関連サイト】

日本記者クラブ会見リポート「片岡春雄・寿都町長」

<https://www.jnpc.or.jp/archive/conferences/35722/report>

同「YouTube 会見動画」

<https://www.youtube.com/watch?v=GMe3plein3s&feature=youtu.be>

原子力発電環境整備機構「イチから知りたい核のゴミと文献調査」

<https://www.numo.or.jp/chisoushobun/ichikarashiritai/>

資源エネルギー庁「科学的特性マップ公表サイト」

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity\\_and\\_gas/nuclear/rw/kagakutekitokus\\_eimap/](https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/kagakutekitokus_eimap/)、

寿都町ホームページ

<http://www.town.suttu.lg.jp/>

神恵内村ホームページ

<http://www.vill.kamoenai.hokkaido.jp.cache.yimg.jp/>